

日頃より、当園の保育に対して温かいご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

このたび、当園に関するご意見が寄せられたことに伴い、園としての立場、運営方針、そして今後の改善策について、以下に詳細にご説明申し上げます。

私たちは、こどもたちが安心して成長できる環境を提供することを最優先に、日々保育に努めております。皆様からのご意見は、よりよい園づくりのための貴重な情報と受け止め、全職員一丸となって今後の運営に反映していく所存です。

(第三者委員に報告をし、第三者委員による苦情・要望内容の確認、解決案の調整、助言等をして頂きました)

1. 【ご意見】

「保育士の人数が足りないのではないか」というご懸念を頂戴しております。

【当園の取り組みと考え方】

当園は、児童福祉法に基づく保育士配置基準を厳守しております。具体的には、3歳児は園児20人につき保育教諭1名、4・5歳児は園児30人につき保育教諭1名という国が定めた基準に則り、適正な保育士の配置を実施しております。

また、当園では、各時間帯におけるこどもたちの動向や利用状況に応じて、時差出勤制度を導入し、必要な人員が常に配置される体制を確立しております。

幼児期は、自主性や社会性の発達を促すため、保育士が全面的に介入するのではなく、こども同士の相互作用の中で学びが深まる環境を整えることが求められます。そのため、当園では、保育士同士が連携を密にし、園全体でこどもたちを見守る体制を整えています。

今後も、保育士の配置基準に基づいた適正な運営はもちろん、保育の質向上に向けた取り組みを一層強化してまいります。

2. 【ご意見】

「園児が自由に好きな遊びをしているだけで、玩具を与えているだけのように見える」というご意見をいただいております。

【当園の取り組みと考え方】

幼児教育の基本は「遊びを通じた学び」にあります。当園では、幼稚園教育要領に基づき、こどもたちが『好きな遊び』を通して自己表現や問題解決能力、社会性、協調性、創造力など多様な力を育む環境を提供しております。

例えば、積み木遊びでは、単なる積み上げ作業に留まらず、形や大きさ、バランスを考えながら自由に創作することで、論理的思考と創造的発想の両方を刺激します。

また、おままごとやごっこ遊びにおいては、こどもたちが自らの役割を決め、友だちと協力する中で、社会のルールやコミュニケーションの大切さを自然に学んでいます。

さらに、当園では、遊びが「学び」に繋がるよう、保育者が適宜介入し、こどもたちが感じた疑問や思いを引き出す対話を実施しております。

こうした取り組みは、単に「自由遊び」を促すのではなく、幼児教育の目標である「10の姿」（健康な心と体、自立心、協同性、道徳性、社会生活との関わり、思考力、自然との関わり、数量・図形・文字への感覚、言葉による伝え合い、豊かな感性と表現）に基づいたものであり、こどもたちの成長に直結するものです。

今後は、保護者の皆様に対して、実際の保育現場でどのように「好きな遊び」が学びに結びついているのかを、写真や具体的なエピソードを交えてより一層分かりやすく発信していきたいと考えています。

3. 【ご意見】

「園児がけがをしても、十分に見守られていないようで、報告がなされないため安心できない」というご指摘を受けております。

【当園の取り組みと考え方】

まず初めに、適切な報告ができなかったことを心よりお詫び申し上げます。当園では、こどもたちの安全確保を最重要視し、日々の保育活動の中で徹底した見守りを行っております。しかし、幼児は活発に動くため、けがが発生する場合がございます。その際、当園ではけがの状況を迅速に把握し、対応していきたいと思っております。

【具体的な取り組み】

保護者の方への連絡や報告の方法や、担任から夕方の職員・夕方の職員から担任等への伝達の仕方(伝言ノートの活用)などを職員間でも対策を考えました。

今後も、これらの取り組みを見直し、保護者の皆様に安心してお子様をお預けいただける体制の確立に努めてまいります。

4. 【ご意見】

「保護者会活動が負担であり、園よりも保護者会の意向が強すぎるのではないか」という意見

がございます。

【当園の取り組みと考え方】

今年度より保護者を立ち上げました。4月のクラス懇談会で役員を募り、役員の方を中心にいろいろな活動をして頂きました。保護者の目的は保護者同士の交流を深めることや、園に通う子どもたちがより楽しくすごせるように園と保護者が協力体制を整えることとしています。保護者の活動は園とは別に行われ、企画や運営なども保護者がしています。保護者の活動もできる方ができる範囲でということを進めていたかと思います。保護者会で決まったことなども、園と打ち合わせをしたり確認をしながら進めることもでき、子どもたちの為に一緒に取り組めたと感じています。また、参加は任意であり、無理をする必要はありません。ご自身の事情や負担を最優先に考えていただければと思います。

5. 【ご意見】

「園が自慢ばかりするだけでなく、現実の保育をどうにかしてほしい」という指摘があります。

【園の取り組みと考え方】

保護者の方に保育の話ができるのは行事の時の挨拶になると思うのですが、園の教育・保育目標や保育の中で大事にしている事をお話しさせて頂いています。「こどもの声を聴く」ことから保育を広げたいと考えて園内研修などで勉強をして取り組んでいます。普段から教育・保育目標や大事にしていることを頭に入れながら保育をするようにしているのですが、先生達も試行錯誤しながら保育をしています。今後も自分達の保育を日々見直しながら保育をしていきたいと思っています。

6. 【ご意見】

「アンケートで出された苦情に対し、対応がなされていない」というご意見を頂戴しております。

【当園の取り組みと考え方】

これまで、令和4年度はコドモン、令和5年度は在園児オリエンテーションを通じてご意見に回答しておりましたが、令和6年度の第三者評価アンケートにつきましては、十分な対応ができなかったことを深く反省しております。

当園は、アンケートを保護者の皆様との大切な対話の機会と捉え、以下のような改善策を実施いたします。

【具体的な改善策】

回答体制の整備：アンケート実施後、速やかに集計・分析し、各項目について詳細な回答を文書化。

専用窓口の設置：ご意見に対する問い合わせ窓口を設け、迅速な対応・説明をする。

すべてのご意見に対して誠意をもって対応し、保護者の皆様に安心してご意見をいただける環境を整えてまいります。

7. 【ご意見】

「知念あさひ保育園で4・5歳児を受け入れてほしい」というご要望がございます。

【当園の取り組みと考え方】

地域内では、知念あさひ保育園での4・5歳児の受け入れ希望者が毎年2～3名となっており、十分な集団形成が難しい状況です。

こどもたちの健全な発達には、集団生活を通じた社会性の育成が重要であるため、当園では、年齢に応じた適正な集団を形成するための保育体制を維持しております。

【今後の取り組み】

地域の保護者の皆様と連携し、4・5歳児の受け入れについてのニーズを把握しながら、今後の体制について検討を続ける。関係機関とも協議し、地域全体でこどもたちが充実した保育を受けられるよう、連携体制を強化する。

これにより、地域のご要望に沿った形で、こどもたちのために最適な保育環境を提供できるよう努めてまいります。

8. 【ご意見】

「理想の保育を掲げる前に、まず目の前のこどもをしっかりと見守ってほしい」とのご意見を頂戴しております。

【当園の取り組みと考え方】

知念こども園として目指す保育はあります。その為にこどもたちへの関わり方やどう対話していくか、環境をどう整えてあげたらいいのかなど日々考えていく必要があると思っています。今年度の目標として目の前にいるこどもたちの声を聴き、そこから保育を広げたり深めたりしていきたいと4月初めに職員で共通理解しています。こどもの声を聴き保育を広げていく事の

おもしろさと難しさを感じているところでもあります。引き続き今後の課題として取り組んでまいりたいと思います。

9. 【ご意見】

「子どもたちが研究や実験の対象になっているのではないか」という疑念が表明されました。

【当園の取り組みと考え方】

当園では、保育の質向上を目的として実践研究を行っておりますが、これは決してこどもたちを実験の対象にするものではなく、現場での保育を振り返り、よりよい支援方法を模索するためのものです。またこの取り組みは南城市の各園が行っております。

実践研究は、保育者がこどもたち一人ひとりの成長や反応を観察し、その結果をもとに保育方法の改善につなげるための手法です。

保育者は、こどもたちの安全と幸福を最優先に考えながら、日々の保育実践を向上させるために、内部でのディスカッションや研修、外部の専門家の意見を取り入れるなどして、常に改善の努力を続けております。今後も日々の保育活動の記録をもとに、園内での研修や外部専門家による助言を取り入れ、客観的な視点からの評価も実施していきます。

これにより、園全体として、こどもたちが安心して過ごせる環境を整え、保護者の皆様にもその取り組みが十分に理解されるよう努めていきたいと思っております。

10. 【ご意見】

「主体性を育むというより、放任しているのではないか」というご意見を頂戴しております。

【当園の取り組みと考え方】

当園では、こどもたちが自ら考え、選び、行動する主体性を育むことを重視しておりますが、これは決してこどもたちを見放す放任とは全く異なります。

主体性を育む保育として、こどもが自分の興味に応じて遊びを選べる環境を整える(環境の整備)。こどもが自分の意見や考え、感情を表現できるように対話を重ねていく(こどもの意見を尊重)。こどもが自分の目標を決め、それに向かって取り組む過程を支援する(自己決定のサポート)。失敗しても安心できる環境を作り、粘り強く挑戦することを応援する(失敗から学ぶ機会)。仲間と協力して活動することで、コミュニケーション能力や社会性を育む(社会性を育む)。などを保育の中で大事にしています。今後も園内での研修や外部の専門家の助言を取り入れながら保育の質の向上を目指したいと考えています。

11. 【ご意見】

「生活発表会が面白くなく、こどもたちの育ちが見えない」とのご指摘をいただいております。

【当園の取り組みと考え方】

当園の生活発表会は、日々の保育活動の中でこどもたちが培った学びや成長の過程を保護者の皆様に伝える貴重な機会と位置づけております。また、保育者主導にならないように、こどもたちと一緒に考えながら作り上げていく事を大事にしています。

この取り組みは、こどもたちの「成長の過程」をそのまま映し出すものであり、発表会を通して保護者の皆様に、日々の保育の成果やこどもたちの生き生きと自由に表現する姿を感じていただけるよう努めています。

発表会が、こどもたちの成長や学びの「プロセス」を共有する場として、保護者の皆様にご納得いただけるようにと考えています。保護者の皆様からのアンケートなどを反映し、構成や進行方法などの改善も図っていきたいと思います。

12. 【ご意見】

「こどもが園からお菓子をもらったと帰ってきたことがある」というご指摘がありました。

【回答】

職員に確認を行った結果、個人的にお菓子を渡した事実がありました。この度は、ご心配とご迷惑をおかけしましたことを心よりお詫び申し上げます。

職員には指導を行い、全職員にも徹底し、今後このようなことが無いよう努めてまいります。

以上、各項目に関して当園の現状、取り組み、そして今後の改善策について詳述いたしました。

本回答文書は、皆様から寄せられたご意見をもとに、当園がさらなる改善を実現するための基本方針として活用し、透明性のある運営を目指すためのものです。

引き続き、保護者の皆様や地域の皆様との対話を大切にし、信頼関係の構築に努めてまいります。